

注意点1



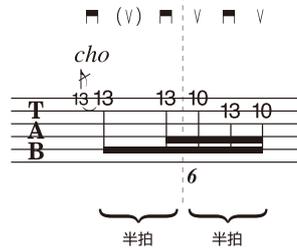
理論

変則的なリズムが特徴的な 6連ラン奏法フレーズ

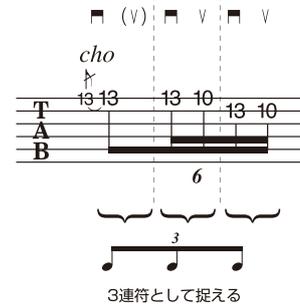
【K3】小節目のラン奏法は、リズムの取り方がポイントになる。6連符が出てきた場合、6連符を3音ずつで半分に分けた半拍3連符を意識して演奏することが多い(図1-a)。しかし、このフレーズでは、6連符を2音1セットで分けて3連符のリズムとして意識した方が演奏しやすいのだ(図1-b)。つまり、オルタネイトのダウンを意識すると良い。とは書きつつも、まずは2通りとも練習してみることをオススメしたい。リズム感を養うためにも、両方を弾いてみて、それぞれのリズム感の違いを身体に覚え込ませよう。

図1 6連ラン奏法のリズムの取り方

(a) 6連を半分に割る



(b) 6連を2音ずつで区切る



注意点2



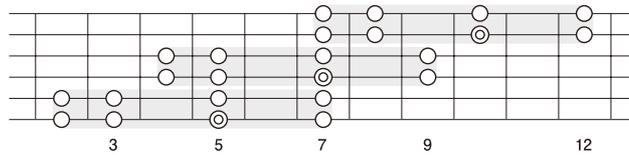
左手

2本弦が1セットになった レガート・ポジション

【H3】～4小節目のようなレガート・フレーズはポジション移動が激しいので、まずはスケール・ポジションを確認しておくことが大切だ(図2)。このスケールは、モード【註】で言うAドリアンに当たり、Gメジャー・スケールと同じポジションになる。スケール・ポジションは3カ所に分けられるので、2本弦ずつを1セットにして覚えていくと良いだろう。このようにレガートは、左手が流れていく道筋がきれいにまとまっていることが多い。ここで、レガート特有のポジションングをしっかりと覚えて、オリジナル・フレーズを作る時にも役立ててほしい。

図2 Aドリアン・スケール

◎トニック=A音



3つのセクションに分けて覚えよう!

注意点3



右手&左手

左手先行型タッピングの ポジションを覚えよう!

【K9】～11小節目の左手先行型タッピング・ポジションは、Cadd9コードの構成音=C音・D音・E音・G音の4音になっている(図3)。ポジションは、オクターブ違いで3カ所あるが、6音1セットで、左端が左手人差し指、真ん中が左手小指、右端が右手だ。このフレーズは、いきなり左手から弾き始めるが、通常のハンマリングの“叩く”感覚よりも跳ねる感じで弦を打ちつくと良い。タッピングで弦を鳴らしたあとは、フレーズを綺麗につなげていくために、少し力を緩めて、離弦しない程度に指を引くようにしてほしい。

図3 左手先行型タッピング・ポジション(Cadd9ポジション)

△…左手人差し指 ○…左手小指 ●…左手タッピング

